


## 海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	居軒 和也 
所属機関	国立がん研究センター中央病院 内視鏡科
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究に従事した外国の研究機関名</li> <li>・参加した国際学会・会議名</li> </ul>	米国消化器病週間(DDW)2017
渡航期間	自 2017/5/4 至 2017/5/10
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究内容</li> <li>・国際学会・会議内容</li> </ul>	Session Title: Clinical Practice 2 - I Session Type: Poster Session Sponsor: ASGE(American society of gastrointestinal endoscopy) Session Date: May 8, 2017 from 12:00 PM to 2:00 PM
<p>研究成果 (要約: 800字)</p> <p>DDW2017に参加させて頂きました。5月8日のポスタープレゼンテーションで造血幹細胞移植後に生じる腸管移植片対宿主病のカプセル内視鏡の有用性に関して、移植関連死亡に着目し発表致しました。今回のDDWでは、小腸カプセル内視鏡の発表が比較的少ない中で、多くの海外の先生方に興味を持ってポスター発表に関して議論させて頂くことができました。安全性や、生検結果との照合などを中心にあくさんの質問を頂き、今回の発表に関しての不十分な点も認識することができ、それらを再検討することでより詳細な検討なると考えております。小腸カプセル内視鏡と造血幹細胞移植後の移植関連死亡に着目した研究は現時点では存在せず、比較的症例数も多いため、インパクトがある内容と考えております。Endoscopy誌のEditorの先生からも早く論文化するべきとお言葉を頂くことができました。今回の議論を踏まえて論文化を進めて参ります。</p> <p>自身の発表以外では、オーラルプレゼンテーションを中心にポスタープレゼンテーションも含めてあくさんの発表を見聞致しました。バーチャル内視鏡を用いたトレーニングやベッドサイドで行う簡易内視鏡など新たなモダリティーの開発に関する発表などもあり、大変勉強になりました。またそれらを発表されている先生方と議論することで今後の研究のモチベーションとなりました。</p> <p>また、DDWでの日本消化器内視鏡学会の役割は大きく、日本消化器内視鏡学会と米国消化器内視鏡学会の合同シンポジウムにはあくさんの海外の先生方が出席されており、活発な議論がされていました。日本の消化器内視鏡学の発展を通じて、世界にも貢献できるよう努力しなければならないと改めて思いました。</p> <p>今回助成を受け、DDW2017に出席させて頂き大変貴重な経験をすることができました。誠に有難うございました。</p>	